

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/11

日・米・欧の金融政策格差相場継続

通貨ペア		ページ数
基調		
ユーロ/円	➔	根強い円先安観 予想レンジ: 120.50 ~ 125.50円 2 - 3
ユーロ/ドル	➔	米物価指標に注目 予想レンジ: 1.4250 ~ 1.4680 ドル 4 - 5
ポンド/円	➔	米決算発表を受けた株の動きにも注意 予想レンジ: 137.00 ~ 141.00 円 6 - 7
ポンド/ドル	➔	英米の金融引き締め時期を睨んで 予想レンジ: 1.6090 ~ 1.6600 ドル 8 - 9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示 10 - 11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 4/4~8までの主な推移



4/4 Monday	前週の大幅上昇の反動からクロス円は全般的に弱含みで推移した。さらに、その後発表されたユーロ圏2月生産者物価指数が前年比+6.6%と予想(+6.7%)を小幅に下回り、1月分が+6.1%から+5.9%に下方修正された事を受けてユーロ売りが強まると、ユーロ/円は119.17円の安値を付けた。(①)
4/6 Wednesday	5日に配信された米著名レポートで「欧州中銀(ECB)が7日の理事会で利上げを行い、さらに追加金融引き締めを示唆する」との見方が示された事が材料視され、ユーロ高が進んだ。さらに、その後NYダウ平均株価が2008年6月以来の高水準まで上昇した事を受けてユーロ買いが加速すると、ユーロ/円は122.62円まで上昇した。(②)
4/7 Thursday	ECBは政策金利を0.25%引き上げると発表した。その後のトリシェ総裁の会見で「インフレに対して非常に注意深く監視する」とした一方で「今回の行動が必ずしも連続利上げの始まりではない」などと発言したため、追加利上げに対する思惑が交錯しユーロは乱高した。その後、宮城県沖でM7.4の地震が発生し「女川原発で一部電気系統が使用不能」との報道が流れると、NYダウ平均株価が100ドル近く急落。リスク回避の円買いが強まり、ユーロ/円は一時120.75円まで下落する場面もあった。(③)
4/8 Friday	東京電力が6月初頭までは計画停電を原則実施しないと発表した事を好感して、日経平均株価が一時200円超上昇し、その後欧州市場でも株価が堅調に推移した。また、原油先物価格が2008年9月以来となる111ドル台に上昇した事から、インフレに対する警戒感を強めている欧州中銀(ECB)の利上げペースが早まるとの見方が台頭した事もあって、ユーロ/円は123.08円の高値を付けた。(④)

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
→ 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は119.17円～123.08円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約2.5%の上昇（ユーロ高・円安）となった。7日に行われた欧州中銀（ECB）理事会で、0.25%の利上げを決定し、その後のトリシェ総裁の会見で「非常に注意深く監視する」と、引き続きインフレを警戒する姿勢を示したことから、追加利上げの思惑が台頭。足元の原油高がユーロ圏のインフレを加速させるとの見方もあって、ユーロ/円は、昨年5月以来の高水準に上昇した。2週間で9円近い上昇となっており、そのペースの速さを懸念する声はあるものの、欧州には追加利上げ観測が台頭している一方で、日本では、東日本大震災の影響から低金利政策の長期化が余儀なくされるとの見方が強く、ユーロ/円が大幅に下落する可能性は低いだらう。今週から本格化する米第1四半期企業決算に改善の期待がかけられており、決算発表を受けてNY株式市場が一段と上昇するようなら、ユーロ/円にも上値余地が生まれそうだ。（神田）

（予想レンジ：120.50～125.50円）

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/円 4/08週足引値：122.68円（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）ユーロ/円は、88.93円（2000/10安値）から169.95円（2008/07高値）へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。その後、動きとしては105.42円（8/24）⇒115.68円（10/07）⇒106.81円（1/10）⇒115.97円（3/04）⇒106.40円（3/17）⇒123.08円（4/08）となっている。先週のユーロ/円は5日連続の急騰を見せた。取引値は20日線（116.46円、4/08）や60日線（114.08円、4/08）、200日線（112.14円、4/08）、を上回っている。ボリンジャーバンドは4/08現在、上限：123.634円～下限：109.29円で、バンド幅が急拡大し、バンド幅の上限を押し上げる形での上昇となっている。ユーロ/円は、レンジでもみあい⇒ブレイク⇒新たなレンジでもみ合い、を繰り返すクセがある。先週は123.08円まで上昇したが、これで終わったというよりもまだどこかに向かう過程のどこかにあるような気がする。2010年1月～4月のもみ合いを見ると、120～128円を中心とする新たなもみ合いゾーンを形成してもおかしくない。上値ポイントは、126.31円（139.22円と105.42円の61.8%戻し）であり、下値ポイントは①116.46円（20日線、4/08段階）②115.97円（3/04高値）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 4/4~8までの主な推移



<p>4/5 Tuesday</p>	<p>格付け会社ムーディーズがポルトガル国債の格下げを発表した事や、中国が0.25%の利上げを発表した事を受けて豪ドル/米ドルが下落した影響から、ユーロ/ドルは下落し、1.4150ドルの安値を付けた。(①)しかしその後、米著名レポートが「欧州中銀(ECB)が7日の理事会で利上げを行い、さらに追加金融引き締めを示唆する」との見方が示された事が材料視され、1.4240ドル台まで反発した。</p>
<p>4/6 Wednesday</p>	<p>スイス3月消費者物価指数が前年比で+1.0%と予想(+0.5%)を大きく上回った事を受けてスイスでも利上げ観測が浮上。ドル/スイスでドル売り・スイスフラン買いが強まると、対ユーロでもドル売りが強まり、ユーロ/ドルは上昇した。さらにその後、NYダウ平均株価が2008年6月以来の高水準まで上昇した事を受けてユーロ買いが加速すると、ユーロ/ドルは1.4348ドルまで上昇した。(②)</p>
<p>4/7 Thursday</p>	<p>ECBは政策金利を0.25%引き上げると発表した。その後のトリシェ総裁の会見で「インフレに対して非常に注意深く監視する」とした一方で「今回の行動が必ずしも連続利上げの始まりではない」などと発言したため、追加利上げに対する思惑が交錯し、ユーロ/ドルは1.4325ドルまで上昇した直後に1.4241ドルまで急落するなど乱高下した。(③)</p>
<p>4/8 Friday</p>	<p>米予算協議が難航する中、連邦政府機関が一部閉鎖される可能性が高まったとしてドル売りが高まった事に加え、アジア時間以降も原油高が一段と進み、原油先物価格が2008年9月以来となる113ドル台まで一時上昇した事を受けて、インフレに対する警戒感を強めている欧州中銀(ECB)の利上げペースが早まるとの見方が台頭すると、ユーロ/ドルは1.4482ドルの高値を付けた。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4150～1.4482ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.7%の上昇（ユーロ高・ドル安）となった。7日に行われた欧州中銀（ECB）理事会で、0.25%の利上げを決定し、その後のトリシェ総裁の会見で「非常に注意深く監視する」と、引き続きインフレを警戒する姿勢を示したことから、追加利上げの思惑が台頭。足元の原油高がユーロ圏のインフレを加速させるとの見方もあるため、ユーロ/ドルは昨年1月以来の高値水準に上昇した。今週は、米国で物価関連の指標の発表が予定されているが、事前予想では3月生産者物価指数が前年比で+6.3%と伸びが加速すると見られる一方で、米連邦準備制度理事会（FRB）が重視する消費者物価指数（3月、コア前年比）では、+1.2%と低い伸びにとどまると見られている。こうした状況下では、6月末に期限が到来する量的緩和第2弾（QE2）は予定通り終了されるとの見方が強いものの、米国の早期金融引き締め観測が強まるには至らないだろう。今後の金融政策に対する思惑から、引き続きユーロ高・ドル安基調が続く可能性が高そうだ。（神田）

（予想レンジ：1.4250～1.4680ドル）

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 4/08週足引値：1.4481（日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開）

ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234（2000/10安値）と1.6037（2008/07高値）の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒4/08高値1.4482となっている。

現状の取引値は20日線（1.4156、4/08）、60日線（1.3845、4/08）、200日線（1.3433、4/08）よりも上値に位置する。先週は3/28に安値1.4020を見て、そこをボトムとしてもみ合いながら上昇の動きを見た。結果先週は大幅な上昇となっている。ボリンジャーバンドは4/08現在、上限：1.4421～下限：1.3891であり、取引値がバンド上限を押し上げて上昇し、下限も上昇が続いている。ユーロは上昇相場が続いている。ペースが速いのは気になるが、ここから1.45を超えると1.4579くらいしか見当たらない。大きな上昇相場になるかどうかを見極めたい。上値ポイントは1.4579（2010/01高値）、下値ポイントは①1.4248（3/22高値）、②1.4156（20日線、4/08段階）、③1.4020（3/28安値）である。（岡田）

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 4/4~8の主な推移



<p>4/5 Tuesday</p>	<p>欧州序盤からポンド買い優勢で始まった上、17時30分に発表された英3月サービス業PMIが57.1と予想(52.6)を大幅に上回ると、ポンド高に拍車が掛かった(①)。さらに、NY市場中にユーロ/円が大幅に上昇すると、ポンド/円は連れて上げ幅を拡大した。</p>
<p>4/6 Wednesday</p>	<p>前日からの円安の流れを引き継ぎ、ポンド/円は一時139.68円まで上昇した(②)。しかし夕方、ドル/円が下落すると、ポンド/円も連れて下落。さらに、英2月鉱工業生産が前月比-1.2%と予想(+0.4%)に反して弱い結果になるとポンド売りが加速し、ポンド/円は138.10円まで値を下げた。しかし、その後はドル/円が反発した他、堅調なNYダウなどを受けてポンド/円は下げ幅を圧縮した。</p>
<p>4/7 Thursday</p>	<p>アジア市場中はユーロ/円の下げに連れてポンド/円も下落したが、欧州市場序盤には反発。しかし、23時32分頃に宮城県で発生した震度6強の地震および津波警報を受けてNY株が急落すると、ポンド/円も一時137.88円まで急落する場面もみられた(③)。</p>
<p>4/8 Friday</p>	<p>実質ゴトー(5・10)日であること背景に仲値公示に向けてドル/円が上昇した他、日経平均が大幅に上昇したことを受けて為替相場では円売り・欧州通貨買いが強まった。これらを背景に、ポンド/円は序盤から上昇。ポンド/円は140.00円と、2010年5月以来の高値を付けた(④)。ただ、その後は上値の重さが鮮明で、17時30分に発表された英3月生産者物価指数(コア)が前年比+3.0%と予想(+2.9%)を上回る結果になったことでポンド買いが加速する場面もあったものの140.00円の高値を超えることはできず、NY市場では株価が軟調に推移するに連れてジリジリと上げ幅を縮小する展開となった。</p>

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

英国では12日に2月商品貿易収支や3月消費者物価指数(CPI)、13日には3月雇用統計と、重要指標が複数発表される。インフレ懸念の強い英国については5月利上げ観測が強まっており、物価上昇が予想を上回ったり、英雇用統計が予想よりも良好な結果になったりすれば、この観測はさらに強く意識される公算が大きい。そうなれば、ポンドはさらに上値を伸ばす展開になろう。

また、主要国株価の動向もポンド/円相場では重要視されよう。特に今週から米国にて主要企業の決算発表が本格化する。決算結果に予想より良好なものが目立てばNYダウ平均が上昇し、ポンド/円も連れて上昇すると考えられる。一方、弱い内容の決算が目立てば、これまで高値圏で推移してきたNYダウ平均が大きく下落することもあり得る。そうなればポンド/円の下落要因になりそうだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 137.00~141.00円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 4/08週足引値: 138.84円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。今後は上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに122.98円(3/17安値)をつけており、長期的な流れでは依然として下落相場となっている。

3/17に122.98円の安値を見て後、4/08には140.00円の高値を見た。先週のポンド/円は上昇の動きとなり、20日線(133.00円、4/08)、60日線(132.82円、4/08)、200日線(131.90円、4/08)をすべて上回っている。ボリンジャーバンドは4/08現在、上限: 140.21円~下限: 125.80円であり、バンド上限は取引値が押し上げる形で上昇、下限は下落しており、バンド幅は拡大している。上値追いの強さには驚かされる。目先ポイントである141円近辺が迫って来ている。上値ポイントは①140.58円(2010/5/10高値)、②140.90円(163.04-118.76の半値)であり、下値ポイントは①133.00円(20日線、4/08段階)、②132.82円(60日線、4.08段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 4/4~8の主な推移



4/5 Tuesday	欧州序盤からポンド買い優勢で始まった上、17時30分に発表された英3月サービス業PMIが57.1と予想(52.6)を大幅に上回ると、ポンド高に拍車がかかった(①)。さらに、NY市場中にユーロ/ドルが大幅に上昇すると、ポンド/ドルは連れて上げ幅を拡大した。
4/6 Wednesday	夕方、スイス3月消費者物価指数が予想を上回った上、ダンティエヌ・スイス中銀理事がスイスフラン高容認と受け止められる発言をしたことでドル/スイスでスイスフラン高・ドル安が進行すると、ポンド/ドルでもドル安が進行し、1.6361ドルまで上昇した(②)。しかし、その後発表された英2月鉱工業生産が前月比-1.2%と予想(+0.4%)に反して弱い結果になると、ポンド/ドルは急落。NY市場序盤には1.6255ドルまで下落した。ただ、NYダウ平均が堅調に推移した他、ユーロ/ドルが上値を伸ばすと、ポンド/ドルも連れて上昇に転じた。
4/7 Thursday	アジア市場中はユーロ/ドルの下げに連れてポンド/ドルも下落したが、欧州市場序盤には反発。ただ、20時にイングランド銀行(BOE)が金融政策の据え置きを発表すると、市場予想通りではあったものの、一部に「異例に声明が発表されるのでは」との期待があったことを背景に、ポンドは急落する場面も見られた(③)。もっとも、その後ユーロ/ドルが反発すると、ポンド/ドルも値を戻した。
4/8 Friday	東京電力が6月初めまで計画停電を原則実施しないと発表すると、国内経済への先行き不安がやや和らいだとして日経平均が大幅に上昇。これを受けて為替相場ではドル売り・欧州通貨買いが強まった。さらに、17時30分に発表された英3月生産者物価指数(コア)が前年比+3.0%と予想を上回る結果になったことでポンド買いが加速すると、ポンド/ドルは1.6426ドルと、2010年1月以来の高値を付けた(④)。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週は英米共に経済イベントが多めの週となっている。英国については5月利上げの可能性、米国については量的緩和の出口戦略開始の時期を、それぞれの経済指標結果や要人発言などから窺っていく展開になるだろう。

ただ、NYダウ平均の動向には注意したい。今週から米主要企業の決算発表が本格化する。良好な内容なものが目立ったり、さらに翌週以降に発表される企業決算について良好な結果になるとの見通しが広がったりすれば、現在高い水準で推移しているNYダウ平均はさらに上値を伸ばすだろう。そうすると、為替相場ではドルを売って欧州通貨を買う動きになりやすい。一方、市場の期待を裏切る結果が相次ぐようならば、3月下旬以降は堅調に推移してきたポンド/ドルは一旦売られる可能性がある。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6090~1.6600ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 4/08週足引値:1.6389(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

先週は直近高値を更新して4/08に1.6426を見た。

取引値は200日線1.5796(4/08)、60日線1.6118(4/08)、20日線1.6169(4/08)を上回っている。また、ボリンジャーバンドは4/08現在、上限:1.6431~下限:1.5906であり、バンド幅は上下に拡大している。3/28にバンド下限を試す動きが見られた後、4/08にはバンド上限を試す動きが見られている。先週はなべて上昇基調をたどった1週間であった。ここから一方的に上昇するのかどうかは分からないが、上昇に勢いがあるのは事実だ。2010年1月の1.6458が目先のターゲットと言えそうだ。目先の上値ポイントは1.6458(2010/01高値)であり、下値ポイントは、①1.6169(20日線、4/08段階)、②1.6118(60日線、4/08段階)、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/11~14)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/11 (月)	08:50		(日) 2月機械受注 [前月比]	+4.2%	-1.1%
			(日) 2月機械受注 [前年比]	+5.9%	+9.0%
4/12 (火)	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月14日分)	—	—
	08:50		(日) 3月マネーストックM2+CD [前年比]	+2.4%	+2.5%
	15:00		(独) 3月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.5%	+0.5%
			(独) 3月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.1%	+2.1%
	17:30		(英) 2月商品貿易収支	-70.57億GBP	-83.00億GBP
	17:30	◎	(英) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.7%	+0.6%
		◎	(英) 3月消費者物価指数 [前年比]	+4.4%	+4.5%
	17:30		(英) 3月小売物価指数 [前月比]	+1.0%	+0.7%
	18:00	○	(独) 4月ZEW景況感調査	14.1	10.0
	18:00		(ユーロ圏) 4月ZEW景況感調査	31.0	—
	21:30		(加) 2月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.2%	—
	21:30		(加) 2月国際商品貿易	+1億CAD	+8億CAD
	21:30		(米) 3月輸入物価指数 [前月比]	+1.4%	+2.0%
	21:30	○	(米) 2月貿易収支	-463億USD	-443億USD
22:00	○	(加) 加中銀政策金利発表	1.00%	—	
27:00		(米) 3月月次財政収支	-2225億USD	—	
4/13 (水)	17:30	○	(英) 3月失業保険申請件数	-1.02万人	—
	17:30	○	(英) 3月失業率	4.5%	—
	18:00		(ユーロ圏) 2月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.3%	+0.7%
	21:30	◎	(米) 3月小売売上高 [前月比]	+1.0%	+0.5%
		◎	(米) 3月小売売上高 [前月比: 除自動車]	+0.7%	+0.7%
	23:00		(米) 2月企業在庫 [前月比]	+0.9%	+0.8%
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
4/14 (木)	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	21:30	◎	(米) 4/9までの週の新規失業保険申請件数	38.2万件	—
		○	(米) 3月生産者物価指数 [前月比]	+1.6%	+1.1%
		○	(米) 3月生産者物価指数 [コア: 前月比]	+0.2%	+0.2%
		○	(米) 3月生産者物価指数 [前年比]	+5.6%	+6.3%
	○	(米) 3月生産者物価指数 [コア: 前年比]	+1.8%	+1.9%	

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/15)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/15	11:00	○	(中) 第1四半期実質GDP [前年比]	+9.8%	+9.4%
(金)	11:00	○	(中) 3月消費者物価指数 [前年比]	+4.9%	+5.2%
	11:00	○	(中) 3月生産者物価指数 [前年比]	+7.2%	+7.2%
	11:00	○	(中) 3月鉱工業生産 [前年比]	+14.9%	+14.0%
	11:00	○	(中) 3月小売売上高 [前年比]	+11.6%	+16.5%
	13:30		(日) 2月鉱工業生産・確報 [前月比]	+0.4%	—
			(日) 2月鉱工業生産・確報 [前年比]	+2.8%	—
	18:00		(ユーロ圏) 3月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.6%	+2.6%
			(ユーロ圏) 2月貿易収支	-148億EUR	—
	21:30	◎	(米) 3月消費者物価指数 [前月比]	+0.5%	+0.5%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [コア:前月比]	+0.2%	+0.2%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [前年比]	+2.1%	+2.6%
		◎	(米) 3月消費者物価指数 [コア:前年比]	+1.1%	+1.2%
	21:30	○	(米) 4月ニューヨーク連銀製造業景気指数	17.50	17.80
	22:00	○	(米) 2月対米証券投資 [ネット長期フロー]	+515億USD	—
		○	(米) 2月対米証券投資 [ネットフロー合計]	+325億USD	—
	22:15		(米) 3月設備稼働率	76.3%	77.40%
	22:15	◎	(米) 3月鉱工業生産 [前月比]	-0.1%	+0.5%
	22:55	◎	(米) 4月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	67.5	69.0

米主要企業決算発表予定

4/11 Monday	アルコア
4/13 Wednesday	JPモルガン・チェース
4/14 Thursday	グーグル
4/15 Friday	バンク・オブ・アメリカ

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com